



19 区 | 前 田 行政区

地理



飯舘村の北西部に位置する。地名は田が多いことに由来する。避難期間が長かったため、一部の河川で流れが滞りやすい状況にある。大きな川の最も上流に位置するため水が澄んでおり、北の清水と言われている。

文化・生活

行政区内には震災前は 55 世帯ほどであったが、震災後は 30 世帯ほどが居住している。移住者は以前より少なく、村の再生と一緒に担う新しい力を必要としている。行政区の中にも 5 つの組があり、回覧板や祭りなどの単位になっていた。生活と文化を共有する日々の助け合いや祭り、地域の話し合いを共に行う昔ながらの生活単位が根付いている。

現在は、村外に暮らしている人が多いことから、草刈りなどの際は、回覧板ではなく電話で連絡を行っている。現在空き家はほとんどない。

農業分野では、震災前から前田営農組合が存在し、3 人程度で地域全体の営農活動を共同で担っている。震災後はドローンを導入している。飼料米と食糧米の両方を栽培しているほか、餅米も育てており、あぶくまもちの生産には飯舘村全体でも力を入れている。米



佐藤勝見 行政区長

2018年より現職。後継者が不足しており何度か再任されている。以前は農協に勤めのかたわら、農業を兼業していた。稲作から転向しブロッコリー、インゲンの露地栽培を行っていた。行政区長の仕事として、行政区での話し合いを月に2、3回行っている。村から委託された村道、県道の除草や除雪を行っている。多面的協議会や中山間協議会、村民体育大会、各行事への参画をする。避難中の行政区総会は飯坂温泉で宿泊を伴って行っていた。行政区長の思い：本当は若い人が戻ってくればいい。大学生などと話したいが、今は高齢者しかいない。エネルギーを分けてもらいたい。

の他に、村固有のそばである「前田明神そば」の栽培とブランド化に取り組んでいる。

震災前には山で採れたわらびを食べることもあったが、現在は山菜やキノコは食べられない。震災後は栽培した作物のうち、非破壊の線量検査で100ベクレル以下のものを販売している。震災前にはふれあい茶屋という直売所で山菜や加工品を販売していた。現在は、加工品や栽培した野菜を道の駅までい館等で販売している人がある。

震災前から農業は兼業であり、先述の通り米の他に葉タバコ、野菜、山菜の栽培が中心であった。兼業先としては村役場、農協の他に菊地製作所があった。

現在圃場の整備が行われており、2025年7月に完了し、県の振興公社から明け渡される予定であり、地区の8割で農地の利用が再開する(2025年6月現在)。そばの栽培は前田明神そば組合が行い、米は前田営農組合が主導している。

林業に従事していたのは2、3人であり、震災前から安価な輸入材の影響で横ばいであった。現在は、線量の低いものを役場と協議しながら伐採している。現在も山間部は平地に比べて除染が進んでいないため、線量が高く、間伐も2025年6月現在において開始されていない。また、前田観光わらび園が震災前に存在していたが、現在は閉園している。

野草園を作る構想もあったが、震災の影響で実現には課題が残されている。

東北大の天体観測所があり、震災前は子ども会を中心に夏に望遠鏡で星を見る会が行われていた。震災後は老人会を中心に前田グラウンドで毎月1日と15日にグラウンドゴルフを開催し、健康維持と親睦を図っている。

前田公民館においては、飯館村社会福祉協議会の支援を受けながら百歳体操、健康教室等を行う。また、老人会、婦人会を中心に四季に合わせた料理を作る前田地域サロンを行っている。

また、以前より豊作を願って1月14日にだんごさしを行っていた。震災前には、前田愛宕神社例祭を春と秋の年2回実施していた。参拝客があったが現在は役員のみ参加である。かなり以前は相撲大会や神輿も行われていたようである。

前田神楽という地域特有の神楽があり、震災前には年始に厄除け祈祷等が披露されていた。盆踊りも神楽団を中心に歌や囃子が公民館やグラウンドで行われていたが、継続的な取り組みができていない。

震災後にはボウリング大会等を福島市内で行っている。新年会は福島市内に泊まりで行い、近況報告をし、親睦を深めている。

行政と協力しているものとしては、震災後も継続している救急訓練がある。

店 事業所

店舗は雑貨屋が1軒あるのみであった。また、平成の地域づくりの時期にはふれあい茶屋を開業していた。茶屋には、家庭菜園で育てた野菜や山菜を販売する直売所があった。



▲ ふれあい茶屋の完成披露（飯舘村提供）

事業所としては、地区東部に金属のブラスト加工を行う従業員6名ほどの「SK ブラスト」という会社がある。また、石材店も所在している。



▲ SK ブラストの資材置き場。消波ブロックの型枠が置かれている

コラム

【前田明神そば組合】

前田明神そば生産組合は、原発事故による避難指示が解除された翌年の2018年、前田行政区長を務めた長谷川健一氏を中心に設立された。栽培は震災前から行われていたが、再開したのは長年放置されてきた農地の保全が目的であった。標高の高い飯舘村の蕎麦は、その寒暖差により、香りが高いことが特徴だ。この組合の蕎麦は、そば打ちの会「いいたて愚真会」により加工され、道の駅までい館では2021年から、愚真会が手打ちした蕎麦を提供している。

人 口

65人	1983年	296人
最新(2020年)	1998年	277人
	2011年	241人



▲ 愛宕神社



▲ 前田の神楽（飯舘村提供）